

氷雪のスポーツ 松田拓也 2010-05-25

・スキーの系譜

スキーが遊びやスポーツとして注目され始めるのは、1860年代に入ってからである。場所はノルウェーのクリスチャニア（現オスロ）。郊外の丘陵地帯を利用して、ラングラウフ（距離競技）とジャンプが若者たちのあいだで人気を博した。これがノルディック競技の始まりである。

1890年にF・ナンセンの著者「スキーによるグリーンランド横断」が刊行されるや、中央ヨーロッパの人々もスキー・クラブをつくって、スキーを楽しむようになった。しかし、こちらでは山岳地帯に入らないと十分な積雪がなかったために、急な斜面を滑降するスキーが中心となった。これがアルペン競技の始まりである。

・スケートの系譜

スキーのようなものから、氷上専門の滑走器具らしきものが派生するのは前1000年前後と推定されている。これらはブレードの部分に動物の骨や木片が用いられている。スケートに関する最古の記述は2世紀の北欧神話である。

スケートはフィンランドに始まり、やがてスカンジナビア全域に広がり、そののちに中央ヨーロッパに伝わったと推定されている。

・そり競技の系譜

「そり」は人類が運搬具として考案した最古の形態と考えられている。少なくとも、車輪の発明（前5000年ころ）以前の人類はもっぱら滑らせる方法に頼っていたと思われる。考古遺物としては、前6500年ころのものが確認されている。が、このような「そり」の先行形態としては、樹枝、樹皮、丸太、動物の毛皮や骨などの上に物を載せて引っ張る運搬具があった。地表面の摩擦を少なくするための「コロ」や「修羅」も、「そり」の先行形態の一つである。

参考文献 『スポーツの歴史―「世界スポーツ史」へのアプローチ』??著、??出版社、

2010